



発行

(社福)南足柄市社会福祉協議会
(ボランティアセンター)

神奈川県南足柄市関本403番地2 ↓HPはコチラ
TEL 0465-72-2299
FAX 0465-74-3276

E-mail minamivc@muse.ocn.ne.jp

HP <http://www.minamisakyko.or.jp/>

FB <https://www.facebook.com/minamisakyko/>



南足柄市社会福祉協議会

ボランティアセンター

かわら版



防災編

備える! 学ぶ! 楽しむ! 秋の時間

その2 回復体位 自然ととれる、楽な姿勢!

災害研修会「豪雨に備える」より

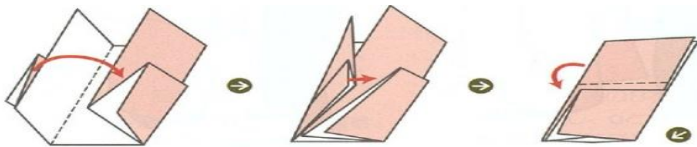
7月に3日間の災害研修会を行い、災害時の「自助」と「共助」について学びました。今回は、“避難と感染症について学ぶ”のなかで、神奈川県日本赤十字社指導員の東江文香氏の指導で受講者が実践した、3つの知恵をご紹介します!

その1 新聞紙のペーパーバック

- ①紙を2つに折る。
- ②1枚だけ輪の方
- ③裏返して三等分にする。



- ④折り重ね、上になった部分をはさむ。
- ⑤手前に2つに折る。



- ⑥折り山から手を入れ、袋を広げる。底の両角を押し上げると座りがついて立つ。



ポリ袋で覆うとコップやお皿の代わりに!

日本赤十字社教本『災害時高齢者生活支援講習ハンドブック』より

頭をわずかに後ろに傾け、下あごを前に突き出して気動を確保します。呼吸をしていたら、傷病者を横向き(回復体位)にし、喉に舌が落ち込んだり嘔吐物が詰まったりして窒息死することを防ぎます。呼吸をしていない時は心肺蘇生とAEDを用いた除細動を行います。



日本赤十字社教本『救急法の基礎知識～備えあれば安心～』より

水害の避難では、3日分の食料も忘れずに持って行きましょう!

その3 非常用袋(撥水性のリュック)

- タオル □ポリ袋 □新聞紙 □アルミブランケット □室内履き □靴下
- 体温計 □消毒液 □マスク □ストッキング □ゴム手袋 □持病の薬(おくすり手帳) □アイマスク □耳栓 □爪切り
- 口腔ケア用品(歯ブラシ、デンタルフロス)

一部「赤十字NEWS」より抜粋

読書編

今号は、声に出して読みたくなる絵本をご紹介します。おはなし会では、子どもはもちろん、大人の方にも好評とのこと。贈り物にしても喜ばれそうです。



教えてくれた人 “四つ葉の会 おはなし会”のみなさん

(劇団ぽぽ・おはなしぼけっと・おはなしサークルりぼん・おはなし青い鳥・おはなしサークル「あのね」・おはなしビスケット)



『おこだでませんように』

作:くすのき しげのり
絵:石井 聖岳
出版社:小学館

『ぼくはいつも怒られる。家でも、学校でも怒られる』という文章から始まります。言い訳もせず、ぐっと我慢していた口下手の少年が、七夕の短冊に書いた願い事はなんでしょう…。大人も共感できる絵本です。



『いろいろおせわになりました』

作・絵:やぎゅう げんいちろう
出版社:福音館書店

わらべうた「おちやをのみにきてください」を題材にした絵本。見開きに楽譜があり、読むというよりも、みんなで歌うと楽しいです。高学年の子どもからも、“読んで欲しい!”とリクエストがきます。

ボランティアとわたし。

「あしがらアートの森」や「あゆみ文庫」といった市内NPOの活動現場で、ひととき元気な原田緑さん。活動継続のヒントは、「ゆるく、頑張らず」と笑う原田さんにインタビューをさせていただきました。

活動のきっかけは 【南足柄の自然】との出会い

平塚市で幼稚園教諭をしていましたが、長男1歳半のときに南足柄市に転入。「自然が豊か!」「子育て環境として最高!」と、下見の段階で気に入りました。「ほどよく便利、ほどよく不便」(笑)というところも。とにかく水がきれい、用水路がきれい…ごみが落ちていないんです。よそ者だからこそ気づける、南足柄の良さをどんどん見つけていきました。

長男が3歳になった頃に、「どろんこクラブ」を立ち上げました。何をやるのではなく、とにかく屋外で泥んこになるまで遊びました。

「あゆみ文庫」との出会い

ボランティア活動の第一歩は、子どもが通っていたむつみ幼稚園を拠点にした、本読みグループ「あゆみ文庫」への参加。新しいグループを作るより、既存のグループと合流することを、当時の園長先生に勧められました。

「世代間交流」の楽しさ

みつけた!

「あゆみ文庫」には同世代のママに加えて、ひとまわり年上の子育ての先輩がいました。10年後の自分も「こんな大人になりたいな」と考えたりしました。また、「とにかく子どもを喜ばせたい」という気持ちでつながっていたので、紙芝居やペープサートの制作や寸劇などに夢中になりました。“やまんば”の登場する人形劇では、仲間の熱演に泣き出す子どもが続出(笑)横だけでない縦のつながりの楽しさ、居心地のよさを見つけました。

原田 緑さん
(和田河原在住)

自分を一言でいうと?

泳ぐのをやめると死んでしまう・・・回遊魚です。

ゆるやかなつながり、続いています

当時自分たちが制作した『スイミー』の影絵の上演会が、向田小学校の2年生保護者に引き継がれています。現在、活動の中心は次の世代になっていますが、新しいメンバーとの出会いと交流を、ゆるやかに楽しんでいます。活動は20年以上になります。

原田さんを動かすものは、「子ども」「自然」「遊び」そして「仲間」

これからやりたいこと・・・南足柄市では、ばーば倶楽部や学童で働きました。特に学童は、「生活」の場だと実感しました。それぞれの学年が一緒に同じ時間を過ごしていく。自分とは少し違うところ、違う表現方法をもつ仲間を、自分たちなりに理解して受け入れる光景がありました。時間をかけて人間関係を学べる大切な場所でした。とにかく、私も「居場所」に育てられました。だから、子どもにとっての、親にとっての「居場所」があるといいなあと思っています。イベント型でなくて、継続性のある、ゆるやかな場をつくりたいなあ、と思っているんです。

社協職員
から

「夏休み寺子屋」では「森のピカソ」としてふたつのプログラムを企画・運営してくれました。川遊びはどう?森で絵を描いてみない?絞り染めに挑戦するのも楽しいよなあ…子どもたちが喜ぶようなアイデアがどんどんわいてくる原田さんに、知恵とパワーをもらいました。

地域福祉活動情報

令和元年度は社協のかかしも出陣しました!

竹松福社会 世代間交流は地域の財産

竹松福社会(青島純夫会長)では、子ども会や老人クラブと共同事業活動などを通して、幅広い世代と一緒に地域を盛り上げています。今回は、最近の活動と、今後に向けた思いを、青島会長にお聞きしました!

「イズ、ヌ、サン、ス〜!」

公民館から始まる「新しい朝」

7年前から「おらほ(※)のラジオ体操」を行っています。体操は自治会、福社会関係なく、竹松地域の人に来てもらえたらと思います。竹松の良いところは、夏まつりなどの行事に、子どもからお年寄りまでのみんなが集まる地域であること。来年は状況が良くなり、催しができるといいですね。

※おらほ…石巻弁で、「わたしたちの」という意味。

地域の想いを繋ぐ萩街道

萩街道は、竹松交差点そばにある用水路沿いに植えられている萩の道のことです。本来であれば、子ども会の協力を得て、かかし作りを行い、9月に萩まつりを実施する予定でしたが、今年度も中止となりました。しかし、萩は変わらず見ごろの季節になりますので、ぜひ足を運んでみてください。

これからのこと…

10月には、竹の会(※)を開催したいと思います。地域の高齢者福祉の観点から、楽しんでいただける内容を考えております。ご期待ください!

※竹の会…高齢者サロン。年に2度開催。